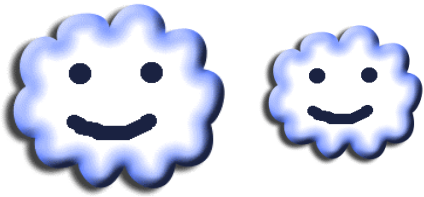


# わくわくひろばだより



NO. 3 2006. 3. 17  
NPO法人 ねばあらんど  
理事長 百田 清美  
電話 047-394-2800

子どもが考える、子どもが準備する、子どもが楽しむ、子どものための、子どもによる、子どもの国。  
2006年3月4日10時。場所は旧新松戸北小体育館。ついに、この国がオープンしました。  
予想をはるかに超える、200名近い入国者が、予想外の経験をいっぱい楽しみました。



## 入国手続き。役所で働いているのは、やっぱり子どもです。

普段わくわくひろばに来てくれる子ども達が、準備に来ていました。オープン時、役所で。「誰か来て働かないと、誰も国に入れないよ！」大人が声をかけると「じゃあ、やる。」という子どもが現れます。



## 仕事探し。仕事名を書いたピンクの札を付けてもらえたら、仕事ゲット！



ハローワークではオープン時に長い列が出来てしまいました。困ったのは、ボランティアの中学生達。仕事そのものに手を出すのは御法度！！さてさて、どうしたら小学生を手伝ってあげられる？



## 就職。習う、働く、教える。全部「仕事」。

例えばストラックアウトの店。受付、ムニをもらう、ルールの説明、ボールを渡す、そのボールを拾う、得点を数える、景品を渡す…。高学年生が、低学年生に、説明を聞いたり、教えたり、異年齢の協働作業。

編み物教室のボランティアのおばあちゃんは「自分に当たり前の事が、相手（子ども達）には当たり前じゃないのねえ。」

## 給料。働きに応じて、自分で稼ぐ。



就職先で、働いた時間を証明するサインをもらって、銀行に見せると、30分で300ムニもらえる。「ムニ硬貨」は段ボールを丸く切ったモノで、いろんな絵が描いてあって、それもおもしろい。さあ何するかな？と思ったら、「オレはまった！遊ぶより働く方がおもしろい！」だって。

# ☆「わくわくひろばの国」スタッフ反省会より、こぼれ話☆



## 食べ物メニューが6, 7種類

★前回、11月にやってみた時、「食べ物がなかった」って意見があったと思ったら、今回は食べ物だらけ！

★でも、「缶けりアイス」とか「あそぼうパン」とか、作る場所から参加するのもあって、やっぱりタダじゃあ食べさせない？！（笑）

★カップ麺は、やっぱり絶大な人気だったね。自分でカップ麺を買って食べるなんて小学生にはワクワク体験だったんじゃない？

## 「子どもの国」での大人スタッフ

★大人禁止の意味は、「子どもが出来ない仕事も、大人は代わらない。ただ必要な手伝いやアドバイスをするだけ」ということ。これが難しいところだね、どこまで介入するか。

★事前に1, 2回しか会ってない学生ボランティアさん達も、一番とまどった所じゃないかな。

★でも、自分がやらないとどうにもならない、って分かれると意外と子どもは動くよね。やってもらえると思えば動かなくなるのは、大人も全く同じ。

★子どもに楽をさせるのが、一番ためにならない、ってか？（笑）



## 就職難で子どもが考えたこと

★これには、ビックリしたよね。「仕事が無いなら、作ってしまえ！」って訳で、「占い屋」「切り絵ショップ」「本屋」等々、子ども達が自分で店をオープンしちゃうんだもん！

★それも一人じゃないからね。「なんだ、そういうのも『あり』？」となったら、じゃあ僕も、私も、って。

★もともと、どの店も子ども達の希望で設定したのだから、子ども達の方が「やりたい、出来る、って、言えばやらせてくれる」ってことを知ってるんだよね。聞いてもらえないと思ったら子どもは言わない。

★とにかく、本当に、子ども達の真剣な顔は良いね。アイデア、忍耐、行動力、責任感、…すごいよ！ああいうとこ見ちゃうと、子どもを応援せずにはられないね。

…ということで、細かい反省点は山ほど出ましたが、それよりも「こんな、頑張った子がいたよ」「こんな事があったよ」と自分の見た素敵な場面の自慢大会で、反省会は終わりました。今回の「わくわくひろばの国」にご協力下さった大勢の方々から心から感謝申し上げます。また、国民あつての「国」ですから、来てくれた大勢の子どもたちに「ありがとう！」